

プロロ

登場人物..

ハンプティ・ダンプティ

詩の朗読。

双子

『In Marble Walls』

タイトルコールはゆっくりと。

本文は言葉を投げ合って遊んでいるように、  
テンポ良く抑揚を強めに。

二人はこの段階では互いに背中合わせで

井戸の縁に座っている。

井戸Ⅱ詩の中に出てくる泉のイメージ。

詩に表現された通りの場所Ⅱ大理石の壁の中にいるため、  
全体に壁や水に反響するような澄んだエフェクト。

卵の内側を連想させる極々狭い空間。

ハンプティ 「お乳のよに白い大理石の壁に、」

ダンプティ 「絹の柔軟<sup>しな</sup>した薄い膜<sup>かわ</sup>つけて、」

ハンプティ 「すいて凝<sup>こ</sup>った泉の中に」

ダンプティ 「金のリングがみえまする」

背中合わせから徐々に振り向いて、

アイコンタクトの一拍を挟み朗読の順番が入れ替わる。

ダンプティ 「そのお城に戸一つないので、」

ハンプティ 「泥棒共までわりこんで金のリングをぬすみだす」

ほど良く間を空けてから、

甘く妖しく子供が媚びるように。

双子

「これ、なーあに？」

朗読終わり、ここから素の口調。

ダンプティ 「ねえ、何だろうね。ハンプティ？」

ハンプティ 「さあ、何かしら。ダンプティ？」

ダンプティ 「それよりもさ、ハンプティ」

ハンプティ 「どうかしたの、ダンプティ」

ダンプティ 「ここは何だかとても寒いね。」

ほら、こんなに君の頬<sup>ほ</sup>っぺも冷たいよ」

ハンプティ 「貴方の手もすごく冷たいわ。」

まるで雪に埋もれた石ころみたい」

息をひそめて間近の距離でくすくす話をするように。

無邪気な会話に見えてほんのり儚さがちらつき始める。

寒さを表現するように小さく溜息・吐息混じりに。

ダンプティ 「暖かいものが、欲しいね」

ハンプティ 「ええ、そうね。できたらふかふかの羽根布団」

ダンプティ 「母様みたいに柔<sup>や</sup>らかくて？」

ハンプティ 「母様みたいに優しく包んでくれるのよ」

ダンプティ 「僕らの母様は何処かな」

ハンプティ 「抱き締めて欲しいわ、眠りたい。」

眠くて眠くて仕方ないのに、」

ダンプティ 「寒くて寒くて眠れない。」

だって僕らは“たまご”なんだよ」

だって僕らは×××なんだよ、と聞こえるように。

“たまご”の部分は編集で伏せ処理。

ハンプティ 「母様がいなくちゃ何もできない、」

ダンプティ 「何処にも行けない。それなのに」

慕情の裏に恨み辛みが湧き上がり二人の声音が翳る。

恨み辛みに関しては二人は無自覚。

ハンプティ 「ねえ、母様」

双子 「貴女は何処に行ってしまったの？」

水面が微かにぴとんと波紋を立てる。

そのまま卵の内側は静寂へ。

解説..

ハンプティ・ダンプティは卵の擬人化。

母鳥に置き去りにされ孵る事のできない卵。

すっかり冷たくなってもまだ二人は母鳥を求める。

母鳥を求める事を辞めてしまえば、

二度と生まれ得る可能性はないから。

もつとも、一度中身が冷たく凝固してしまった卵が

孵る事なんてないのだけれど。

二人はそれを認めない、認めたくない。